



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2016年10月発行（第78号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ：「かせを打ち砕く」 エレミヤ

◎証：「時を見分ける」 H.F

◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「かせを打ち砕く」 by エレミヤ

本日はかせを打ち砕く、という題でメッセージしたいと思います。終末の日に教会が背教し、神や聖書のかせを打ち砕くようになる、ということを見ていきたいと思います。以下のテキストの箇所から見ていきたいと思っています。

詩篇2:1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。

2:2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者と共に逆らう。

2:3 「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」

このテキストに沿って見ていきましょう。

”なぜ国々は騒ぎ立ち（KJV:怒り）、国民はむなしくつぶやくのか（KJV:空しいことを考えるのか）。”

終わりの日に群集が神に対して怒り、また

空しいことを考える日が来ます。神に対して怒るとは、すなわち神の定めや教えに対して怒りを発するようになるのです。また空しいこととは、神の真理を離れた空しい教理を信じたり、支持するようになる、そう理解できません。聖書は同性愛を支持している、などとの空しい教理や教えを受入れるようになるのです。

”2:2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者と共に逆らう。”

ここでは、地の王たちが、神やキリストに逆らって立つことが描かれています。この「地の王」とのことばは、以下のハルマゲドンの箇所にも描かれています。

黙示録 16:14 彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。彼らは全世界の（地上の:KJV）王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。

ですので、この詩篇の箇所は実は黙示録のハルマゲドンの戦いを説明した箇所である、そう理解できるかもしれません。

。

「地の王たち」

地の王たちの意味合いは何でしょう？
地の王とは以下の地に住む人々の王となる人々です。

黙示録6:10 彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、**地に住む者 (dwell on the earth)**に私たちの血の復讐をなさないのですか。」

地に住む者とはKJVでは、「地に定住するもの」というニュアンスで書かれています。地に定住するものとは、以下に書かれた地上の寄留者であるアブラハムとは反対の人々です。

ヘブル書11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、**地上では旅人であり寄留者**であることを告白していたのです。

11:14 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。

11:15 もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。

11:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

アブラハムは地上では旅人であり寄留者として歩んでいました。彼らの故郷は、この地ではなく天の故郷を望んでいたのです。その反対に、地に住むものや地の王は天の故郷というよりこの世に定住し、この世の価値観や目的で歩く、この世的なクリスチャンをさすと理解できます。そして地の王とはそのようなこの世的な教会のリーダーをさすたとえと理解できます。

”地の王たちは…主と、主に油をそそがれた者とに逆らう。”

この世についての教会リーダーたちがいずれ、主である神とその油注がれた者すなわち、キリストに逆らう日が来ることがここでは預言されています。

「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」

ここでは、地の王すなわち、この世についての教会のリーダーたちが神やキリストのかせを打ち砕こうとすることが描かれています。このことの意味合いは何でしょうか？かせということばは、以下でくびきと書かれたことばと同じ原語です。（70人訳）

マタイ 11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

主はこのように私たち、クリスチャンに対してキリストのくびきを負って歩むよう、薦められました。しかし終末の日、この世についての教会のリーダーたちはそんなキリストのくびきなど負いたくないと拒否し、反抗するようになるのでしょうか。主のくびきを負うとは、具体的には、キリストの十字架を負った歩みをさすように思えます。主はかつて以下の様に私たちに自分の十字架を負って歩むよう語られたのです。

マタイ16:24 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

16:25 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。

主はこのように語られたのですが、終末の日においてこの世について教会のリーダーたちは、十字架を負うことを拒否します。キリストのくびきを負うことを拒否し、自分勝手な歩みを選ぶようになります。彼らは、まるで獣がかせを外し、自分を縛る綱を引きちぎって主人の家を脱走するようになります。神やキリストの教えから外れ、聖書と全く異なった歩みに入っていくのでしょうか。

<ハルマゲドンの戦い>

さて、先ほど見ましたように地の王ということばは、黙示録のハルマゲドンの戦いの記述の中に出てきます。この箇所を見ていきましょう。

黙示録16:13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。

16:14 彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。

16:15 ——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物をつけ、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。

16:16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。

この箇所を見ていきましょう。

“また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。”

終末の日は、汚れた霊や、悪霊がキリスト教会に働く日です。

“16:14 彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。彼らは全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日

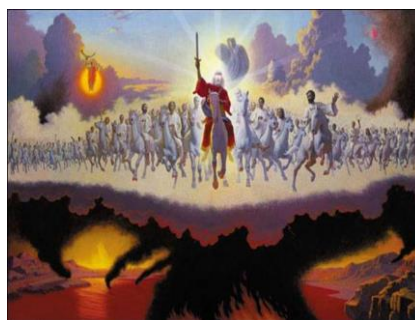
の戦いに備えて、彼らを集めるためである。”

その悪霊に関して、それは「彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。」と書かれています。ですから、今教会で行われている聖霊の第3の波を始めとする「しるしと不思議を行うリバイバルの霊」は非常に怪しいことがわかります。それは、神の霊というより、悪霊でしょう。それはいずれ、神に逆らう方向に教会に影響を与える霊なのです。

「彼らは全世界の王たちのところに出て行く。」

ここでは、この霊が「全世界の王たちのところに出て行く」ことが書かれています。たとえの意味合いとしては、このしるしと不思議のリバイバルは全世界の教会に影響を与えるようになる、その霊の影響の中で、神やキリストに逆らい、そのかせを外す働きが出てくるようになるのでしょうか。このことは、事実です。このしるしと不思議のリバイバルの霊に影響されると、神の戒めを守る方向に行くのではなく、逆に神の戒めを破るようになる傾向があります。このリバイバルの霊に影響された多くの器が、聖書の教えとかけ離れたスキャンダラスな問題を起こしたりしているのです。

“万物の支配者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。”



ハルマゲドンの戦い

ここでは惑わしの霊に惑わされた地の王、すなわち、この世的なキリスト教のリーダーたちが、神との戦いに入るべく、大挙して集まることが描かれています。彼らは何に対して戦い、誰に対して戦おうとするのでしょうか？それは、詩篇に「主と主に油注がれたものに逆らう」と書かれているように、神やキリストに対して反抗し、逆らい、戦いを挑むのです。

その戦いとは具体的にはどのようなものとなるのでしょうか？それは「かせを打ち砕く」と書かれているように、自分たちを締め付けるあらゆる神の教えや聖書の教えに対して異を唱え、反対を表明するようになるのでしょうか。具体的には、同性愛は正しいと宣言したり、キリストのみに救いがあるとの考えは狭量であり、他宗教を考慮しない、非人道的な教え、宗教テロをもたらす教えなので廃棄するとしたりすることでしょう。さらにキリストの血によるあがない、などの教えは非科学的だなどと非難するようになるのでしょうか。

“——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物をつけ、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。——”

さてこのような地の王たちの戦いや反抗と関連して突然の様に「身に着物をつけ、裸で歩く恥を人に見られないようにする」ことが書かれています。このことの意味合いは何でしょうか？着物ということばは以下の「衣」ということばの原語と同じです。

黙示録3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。

ここでは、義の白い衣について書かれています。ですから「身に着物をつけ、裸で歩く恥を人に見られないようにする」とは、要するにキリストのあがないを失わない、救いを失

わないことに関する警告と理解できるのです。そして、このことばが、地の王たちの反抗とともに描かれていることの意味合いはこうです。すなわち、その日、地の王たちの惑わされた論説や教理に従い、キリストのみに救いがあるとの教えから外れ、キリストのあがないの教理からずれたりするクリスチャンは皆、義の衣を失い、救いを失うようになる、そう警告されているのです。

“16:16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる所に王たちを集めた。”

さて、このようにして惑わされたこの世につくキリスト教のリーダーたちがハルマゲドンに集まることが描かれています。その結末はどうなるのでしょうか？その戦いの結末は明言されていないのですが、ハルマゲドンということばが、王たちの悲劇的な最後を暗示しています。何故そういえるのか？ヘブル語ハルマゲドンの意味合いはメギドの山という意味です。メギドは大平原で山などありません。ですので、このことばにはたとえの意味合いがあるように思われます。メギドは旧約聖書によれば、神の民の王が滅んだ場所です。以下の通りです。

2列 23:29 彼の時代に、エジプトの王パロ・ネコが、アッシリヤの王のもとに行こうとユーフラテス川のほうに上って来た。そこで、ヨシヤ王は彼を迎え撃ちに行ったが、パロ・ネコは彼を見つけてメギドで殺した。
23:30 ヨシヤの家来たちは、彼の死体を戦車にのせ、メギドからエルサレムに運んで来て、彼の墓に葬った。この国の民は、ヨシヤの子エホアハズを選んで、彼に油をそそぎ、彼の父に代えて、彼を王とした。

ここでは、神の民、ユダの王であるヨシヤがメギドで滅んでしまったことが描かれています。他にも同じくユダの王アハズヤが同じくメギドで滅んでいます。ですので、黙示録がこのハルマゲドンの戦いで反抗する王たちの運命に関連して暗示していることは彼らが

「かせを打ち砕く」 エレミヤ

結局は滅んでしまう、そのことと理解できません。

＜終末の日の背教は預言されている＞

終末の日に教会やクリスチャンが神の教えに背き、そのかせを砕き、背教に進むことはテサロニケ書にも預言されています。以下の箇所です。

2テサロニケ2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

ですので、終末の日に教会が神やキリストに逆らい、自分たちを締め付けるあらゆる教えに反逆するようになり、自由な道、罪の道を歩むようになることはここでも預言されているのです。また、いずれその背教の教会の王座すなわち、キリストの座からキリストが追い出され、反キリストがその座を占めるようになることもここで預言されています。その反キリストをこの聖書箇所では、「不法の人」（罪の人）と呼んでいます。このことは非常に暗示的です。何故なら、神のかせを砕く、綱を解き捨てるとは、別の表現をするなら、神の律法など気にせず、罪の道を歩む、という言い方ができるからなのです。

このテサロニケ書が描いているのは近未来の教会の姿です。そこには、神のかせを砕き、綱を解き捨て、あらゆる神の教えに難癖をつけ、反抗し、最後にはキリストを追い出した背教の教会がその報いとして、反キリストすなわち、罪の人を神として受け入れるようになることがここでは書かれているのです。彼らの神からのかせを砕きたい、綱を解き捨てたい、という願いがかなう日がくるともいえるのかもしれません。しかし、そのような

人は以下のことばのように、その結果、のちに神のすさまじい怒りを受けるようになります。

黙示録 14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。

「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、

14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。

＜現代のキリスト教会は神からのかせを打ち砕きつつある＞

さて、このように聖書に書かれているのですが、しかし、現在のキリスト教会は年とともにますます神のかせを砕き、その綱を解き放つ方向に歩んでいることを見ます。

アメリカを始めとした教会では、聖書に逆らって同性愛を認め、また、殺すなどの教えに逆らって戦争に賛成しています。さらに姦淫するなどの教えに逆らって多くのスキャンダルが起きています。いずれ、冒頭のテキストにあるように世界中の教会のリーダーが神やキリストに逆らって集まり、決議し、教会からキリストや神の教えを追い出す日が来るように思えます。しかし、私たちにあっては、神を恐れ、正しく主のことばと教えを尊重していきたいと思います。以上



同性婚を祝福する牧師

「時を見分けなさいと」ルカ12章で主イエスは言われています。では今の時代はどのような時なのでしょう？今起こっている出来事のいくつかを踏まえてみていきたいと思えます。

第1 テモテ3；16～4：1 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。キリストは肉において現れ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。しかし、御霊が明らかに言われるように、のちの時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

2015年9月25日 ローマ法王フランシスコは国連総会で演説し世界中の注目を集めました。その前日2015年9月24日、NYのマンハッタンのセント・パトリック大聖堂で、ローマ法王フランシスコがメッセージをしました。その中で、法王はイエスキリストの十字架は人間的に見て失敗であったと語り、十字架の復活と勝利については語らず次の話題に移りました。同じく法王はそのスピーチの中で、イスラムの神とキリスト教の神は同じであると考えられるような表現をしています。祈る際にイエスの名ではなく、慈悲の神と祈っています。「慈悲の神」という呼び方はイスラム教の神に用いる言葉です。このセント・パトリック大聖堂で語られた内容について、法王のメッセージを聞いた、もしくは読んだ多くの聖書的な信徒は衝撃を受けています。

第2 テモテ1：10それが今、私たちの救い主キリストイエスの現れによって、明らかにされたのです。キリストは、死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。

第2 テモテ2：8 私の福音に言うとおりに、ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえった、イエスキリストをいつも思いなさい。

とあるように、イエスは死者の中からよみがえられ死を滅ぼされました。初代教会のリーダーである使徒ペテロも復活されたイエスの証人となり、使徒行伝2章32節で「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です」と証言しています。イエスが十字架にかかれ、復活され死に勝利されたことはキリスト教の信仰の土台であり、真理です。パウロも、もしイエスが死からよみがえられてないなら、我々の信仰は虚しく意味がないと言っています。しかし、カトリックのリーダーである法王が、イエスの十字架の贖いと復活、死に対する勝利のことを語らずに十字架が失敗であったという表現をしたのです……。それはキリスト教の真理を否定しているということです……。

また、法王はイエスの名ではなく慈悲の神という名で祈りました。これはイスラム教の神の呼び方であり主イエスを無視した祈りです。イスラム教は主イエスを神の御子とは認めていませんし、十字架の贖いも信じていません。聖書の御言葉に忠実に従うなら、イスラム教とキリスト教が合意することは、まず考えられないことなのでしょう。しかし、今、考えられないことが、起こっているのです。

「クリスラム」この言葉をご存じでしょうか？これはキリスト教とイスラム教とを混ぜた名称です。これを進めていこうとする大きな流れがあります。ローマ法王はエキュメニカル、他の宗教との対話という形ですすめており、法王はイスラム教もキリスト教も同じ神を信じていると多くの場所で述べています。

「クリスラム」の流れはカトリックだけではありません。プロテスタントにおいても同じです。2007年に、イスラム教徒の学者や聖職者は、キリスト教の指導者たちに、「私たちとあなたがたとの間の共通の言葉を」と題した公開書簡を送りました。これに回答し書簡に署名したキリスト教の指導者は、かの有名なリック・ウォレンをはじめ、多くの福音派の宗派や神学校を代表する牧師や教授がいます。ワシントンにある国立大聖堂では金曜日にイスラム教の礼拝の場所を提供しています。2016年6月アメリカの長老派教会総会ではイスラム教徒がアラーに祈りを捧げました。これらのことは、目くじらを立てるほどのことではないのでしょうか？人間的な考え方なら、一見良さそうにみえるかもしれません。しかし主イエスを無視した働きを、主はどう思われるのでしょうか……。このようなことが起きている今は、はたして祝福の時代なのでしょうか？

第1テモテ4：1しかし、御霊が明らかに言われるように、のちの時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

第2テモテ3：5見えるところは、敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。

テトス1：16彼らは、神を知っていると口では言いますが、行いでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。

第2テモテ3：1終わりの日には、困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。

初代教会の時ですら、おかしい教えが広がりつつあると使徒たちは警告していました。そして終わりの時には惑わす霊により、さらに困難な時代になると書かれています。また、使徒パウロは、教会の指導者たちと最後の別れをした時、彼らに警告をしています。

使徒20：28～30あなた方は自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。私が出発したあと、凶暴な狼があなた方の中に入り込んできて、群れを荒らしまわること私には知っています。あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちがおこるでしょう。

教会を牧する指導者たちの中に、異端的な教えを持ち込む者、いろいろな曲がったことを言う者が出てくることが示されています……。使徒たちの初代教会から、およそ2000年が経ちました。今の時代を考えてみましょう。少し見てきただけでも考えられないようなことが起こっています。今まさに終わりの時に差し掛かっているといえないのでしょうか？私たちは時を悟らなくてはならないのです。以上



イスラム教のモスク

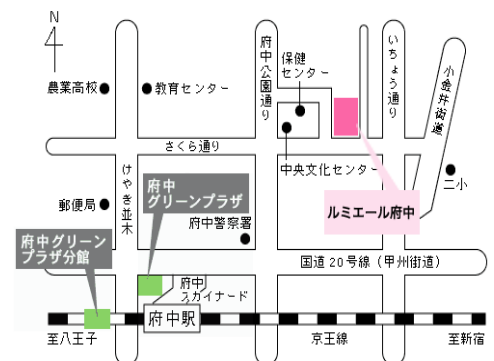
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

- ☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>
- ☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
<http://whattopics.at.webry.info/>
- ☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>
- ☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
<http://87494333.at.webry.info/>